

地方独立行政法人秋田県立病院機構 平成31年度計画

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
にとるべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 発症予防に向けた取組

循環器・脳脊髄センターは、保健師など発症予防の指導的役割を担う者に対し、保健指導者講習会を開催する。

リハセンは、発症予防の指導的役割を担う者に対する保健指導者講習会の開催に向けて検討する。

循環器・脳脊髄センターは、従来の脳ドックに循環器の検査項目を加えた脳・心臓ドックの実施を検討する。

両センター一体となり、認知症ドックについて実施に向けた課題を検討する。

平成31年度の計画値

指導者講習会開催回数	循環器・脳脊髄センター	1回
指導者講習会開催回数	リハセン	一回
検診件数	全 体	1, 277回

(2) 政策医療の提供

① 循環器・脳脊髄センター

脳と循環器の包括的医療に関しては、体制強化のため医師を増員する。

脊髄・脊椎疾患の医療に関しては、高齢者の生活の質確保を目的に、脊椎固定装置を使用した低侵襲腰椎固定術等の最新医療を提供する。

リハビリテーション医療に関しては、体制を強化するために、心臓リハビリテーションを含めた訓練室の整備を進めるとともに、リハビリテーション療法士の増員やリハセンとの人事交流を行う。

平成31年度の計画値

全医師数	循環器・脳脊髄センター	34人
最新の脊椎固定装置（テラーメイドインプラント）を使用した低侵襲腰椎固定術の件数	循環器・脳脊髄センター	1件
リハビリテーション療法士数	循環器・脳脊髄センター	43人
PETを利用した認知症の検査件数	全 体	一件

② リハセン

リハビリテーション医療に関しては、ロボットによる訓練支援やバーチャルリアリティ（VR）など最新のリハビリテーション療法を導入するとともに、循環器・脳脊髄センターと人事交流を実施する。また、整形外科的疾患も含めた幅広い分野のリハビリテーションを提供する。

県が運営する高次脳機能障害相談・支援センターにおいて相談・支援業務を行う。

精神医療に関しては、生活行為の向上を図るためのリハビリテーションを推進するため多職種で検討する。また、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピン療法を導入し、薬物治療抵抗性うつ病に対しては反復経頭蓋磁気刺激法の導入準備を進める。

医療観察法に基づく鑑定入院・待機入院を速やかに受け入れるとともに、指定通院については、関係機関との連携強化に向けて検討する。

認知症医療に関しては、診療科にとらわれず横断的に認知症診療を行う。

また、PETを利用した認知症の検査について循環器・脳脊髄センターと共同で検討する。

県が運営する認知症疾患医療センターにおいて医療を提供する。

平成 31 年度の計画値

ロボットスーツHALによる訓練件数	リハセン	130件
磁気刺激による治療件数	リハセン	一件
PETを利用した認知症の検査件数（再掲）	全体	一件

③ 脳・循環器疾患の三次救急医療と精神科救急の全県拠点病院

循環器・脳脊髄センターは、救急隊からの要請による患者受入を速やかに行うために、メディカルコントロール協議会や救急隊との各種研究会に参画して連携する。

リハセンは、秋田県精神科救急システムの地域輪番病院及び県拠点病院として、常時患者を受け入れるための体制整備に向けて検討する。

(3) 医療従事者の確保・育成

効果的な情報発信のあり方を検討する。

医師確保については多様な情報収集と採用活動を行う。

センター間における人事交流を行う。

両センターが一体的に行う研修について、職種別の教育体制を検討する。また、職員は各種団体や関連学会が主催・運営する研修会や教育システムを活用し参加

する。

平成 31 年度の計画値

病院機構の医師数	全体	49 人
----------	----	------

(4) 患者・家族の視点に立った医療サービスの提供

療養環境やホスピタリティを患者・家族の視点で点検し、評価するための方針を検討する。

平成 31 年度の計画値

研修会開催回数	循環器・脳脊髄センター	一回
研修会開催回数	リハセン	一回

(5) より安心して信頼される医療の提供

法令遵守を点検する体制を整備する。

リスク管理に関する職員研修を実施する。

循環器・脳脊髄センターは、第三者機関による病院機能の評価について受審を検討する。

リハセンは、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の再認定を目指す。

平成 31 年度の計画値

研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)	循環器・脳脊髄センター	2 回
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)	循環器・脳脊髄センター	2 回
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)	リハセン	2 回
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)	リハセン	2 回

2 医療に関する調査及び研究

(1) 循環器・脳脊髄センターの研究体制の強化

研究に専従する研究員を増員する。

平成 31 年度の計画値

専従の研究員数	循環器・脳脊髄センター	5 人
---------	-------------	-----

(2) 研究成果の広報

原著論文を年 3 1 件以上発表する。

研究成果をウェブサイトやマスメディアを活用し県民へ広報する。

平成 31 年度の計画値

原著論文発表件数	循環器・脳脊髄センター	3 1 件
----------	-------------	-------

3 医療連携の推進及び地域医療への貢献

(1) 医療連携の推進

循環器・脳脊髄センターは、県の三次医療機関として地域連携患者支援室を中心に全県域の医療機関への訪問活動を実施する。また、回復期リハビリテーションについては脳卒中地域連携パス推進のための体制整備を進める。

リハセンは、秋田周辺精神科救急医療圏及び由利本荘・にかほ精神科救急医療圏の輪番制に参加し、当番日には対象患者を受け入れるとともに、全県拠点病院として、精神科救急医療体制連絡調整委員会に参画する。

秋田道沿線地域医療連携協議会において関係機関と連携し「脳卒中地域連携クリニカルパス」を活用する。

平成 31 年度の計画値

救急搬送件数	循環器・脳脊髄センター	6 0 0 件
回復期リハビリテーション病棟 新規入院患者数	リハセン	1 9 0 人
連携パス使用件数	循環器・脳脊髄センター	2 4 件
精神科救急件数	リハセン	1 6 5 件
脳卒中地域連携クリニカルパス 使用件数	リハセン	1 6 5 件

(2) 地域医療への貢献

各種研修会を開催するとともに、医療や健康に関してウェブサイトで情報を発信し、広報誌を発行する。

また、他医療機関の医療従事者を対象とした研修会を開催するとともに、職員を講師として派遣する。

医師を対象とした認知症医療の短期研修の開催に向けて、プログラムを検討す

る。

診療支援を希望する医療機関に対し、可能な範囲で医師の派遣を行う。

県内医療機関へ画像診断サービスを周知し、実施する。

平成 31 年度の計画値

県民向け講演会回数	循環器・脳脊髄センター	7 回
認知症医療短期研修参加医師数	リハセン	一人
画像診断サービス提供件数	循環器・脳脊髄センター	5 0 3 件
画像診断サービス提供件数	リハセン	2 4 0 件

4 災害時における医療救護等

(1) 循環器・脳脊髄センター

県内外で開催される研修会や訓練に参加して災害派遣医療チーム（DMAT）隊員の能力向上を図り、発災に備える。

秋田県災害医療対策本部のコーディネートチームへ参画する。

(2) リハセン

県内外で開催される研修会や訓練に参加して災害派遣精神医療チーム（DPAT）隊員の能力向上を図り、発災に備える。

災害拠点精神科病院の指定に向けてリハセン内の体制整備を検討する。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 効率的な運営体制の構築

(1) 病院機構全体を一体的に運営する効率的な体制の構築

病院機構全体の内部統制体制の整備を行う。

事務体制の整備に向けて検討する。

(2) 経営改革

経営指標を定期的に評価するためのシステムを構築する。

2 病院経営に携わる事務部門の職員の確保・育成

病院経営を希望する職員を計画的に採用する。

病院経営管理士資格取得のための教育プログラムを受講させる。

平成 31 年度の計画値

病院経営管理士資格所持者数	全体	2 人
---------------	----	-----

3 収入の確保、費用の節減

(1) 収入の確保

循環器・脳脊髄センターは、県の三次医療機関として地域連携患者支援室を中心に全県域の医療機関への訪問活動を実施する。また、回復期リハビリテーションについては脳卒中地域連携パス推進のための体制整備を進める。

リハセンは、秋田周辺精神科救急医療圏及び由利本荘・にかほ精神科救急医療圏の輪番制に参加し、当番日には対象患者を受け入れるとともに、全県拠点病院として、精神科救急医療体制連絡調整委員会に参画する。

秋田道沿線地域医療連携協議会において関係機関と連携し「脳卒中地域連携クリニカルパス」を活用する。

平成 31 年度の計画値

病床利用率	循環器・脳脊髄センター	91.3%
病床利用率	リハセン	86.2%

(2) 費用の節減

物流システムの導入による在庫管理の徹底、複数年契約や一括の単価契約など多様な契約手法を活用する。

診療材料の類似品目の集約化によりコストを抑える。

また、後発医薬品については、使用頻度の高い薬剤について切り替えを進める。

平成 31 年度の計画値

材料費の対医業収益比率	循環器・脳脊髄センター	28.0%
ジェネリック医薬品採用率 (数量ベース)	循環器・脳脊髄センター	36.5%
材料費の対医業収益比率	リハセン	14.6%
ジェネリック医薬品採用率 (数量ベース)	リハセン	71.0%

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

- (注) 1 予算 病院機構の業務運営上の予算を、現金主義に基づき作成するもので県の予算会計に該当するもの
- 2 収支計画 病院機構の業務の収支計画を、発生主義に基づき明らかにし、純利益又は純損失という形で表すもの
- 3 資金計画 病院機構の業務運営上の資金収入・資金支出を、活動区分別（業務・投資・財務）に表すもの

1 予算

区 分	金 額 (百万円)
収 入	
営業収益	10,165
医業収益	6,585
運営費交付金	2,827
その他営業収益	753
営業外収益	164
運営費交付金	124
その他営業外収益	40
資本収入	2,282
運営費交付金	842
長期借入金	984
その他資本収入	456
計	12,611
支 出	
営業費用	9,954
医業費用	9,752
給与費	5,680
材料費	1,604
経費	2,331
研究研修費	137
一般管理費	201
基金等事業費	1
営業外費用	201
資本支出	2,786
建設改良費	1,591
償還金	1,195
その他資本支出	0
予備費	50
計	12,991

【消費税等の取扱い】

上記の数値は消費税及び地方消費税込みの金額を記載している。

【人件費の見積り】

当期中総額 5,830 百万円を支出する。なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員諸手当及び法定福利費等の額に相当するものである。

【運営費交付金等】

- 1 運営費交付金は運営費負担金を含む。
- 2 建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費交付金等については、経常費助成のための運営費交付金等とする。

【脳血管医学振興基金事業に係る寄附金の使途等】

脳血管医学振興基金の事業に充てるものとして受領する寄附金（当該基金の運用によって生じた運用益を含む。）については、基金等事業費の脳血管医学振興基金事業費として支出し、当期中の支出額は1,206千円とする。

2 収支計画

区 分	金 額（百万円）
収入の部	10,697
営業収益	10,553
医業収益	6,577
運営費交付金収益	3,200
資産見返負債戻入	751
その他営業収益	25
営業外収益	144
運営費交付金収益	100
その他営業外収益	44
臨時利益	728
支出の部	11,208
営業費用	10,622
医業費用	10,422
給与費	5,833
材料費	1,473
経費	1,495
減価償却費	1,484
研究研修費	137
一般管理費	199
基金等事業費	1
営業外費用	586
臨時損失	822
純利益	▲605

【消費税等の取扱い】

- 1 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。

- 2 控除対象外消費税等負担額及び資産に係る控除対象外消費税等負担額は営業外費用に含まれている。

【運営費交付金】

運営費交付金収益は運営費負担金収益を含む。

3 資金計画

区 分	金 額 (百万円)
資金収入	15,311
業務活動による収入	10,329
診療業務による収入	6,586
運営費交付金による収入	2,950
その他の業務活動による収入	793
投資活動による収入	1,528
有価証券の償還による収入	1,000
運営費交付金による収入	72
その他の投資活動による収入	456
財務活動による収入	1,754
運営費交付金による収入	770
長期借入金による収入	984
前期事業年度からの繰越金	1,700
資金支出	12,941
業務活動による支出	10,155
給与費支出	5,830
材料費支出	1,604
その他の業務活動による支出	2,721
投資活動による支出	1,591
有価証券の取得による支出	0
有形固定資産の取得による支出	1,571
その他の投資活動による支出	20
財務活動による支出	1,195
長期借入金の返済による支出	611
移行前地方債償還債務の償還による支出	566
その他の財務活動による支出	18
次期事業年度への繰越金	2,370

【消費税等の取扱い】

上記の数値は消費税及び地方消費税込みの金額を記載している。

【運営費交付金】

運営費交付金による収入は運営費負担金による収入を含む。

【繰越金】

前期事業年度からの繰越金及び次期事業年度への繰越金には、当期開始前に運用を開始し、当期中に未償還の有価証券を含まない。

【有価証券等】

有価証券の取得による支出、有価証券の償還による収入には、当期中に取得し、かつ償還となる有価証券を含まない。また、その他の投資活動による支出、その他の投資活動による収入には、当期中に預入れし、かつ払出しとなる定期預金を含まない。

第4 短期借入金の限度額

- 1 限度額 500,000,000 円
- 2 想定される短期借入金の発生事由
運営費交付金及び運営費負担金の交付時期の遅れなどによる一時的な資金不足への対応

第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第6 剰余金の使途

決算において生じた剰余金は、病院施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てる。

第7 その他業務運営に関する重要事項

1 施設及び設備の整備に関する計画

循環器・脳脊髄センター東棟の設備等の改修工事を実施する。
リハセンの建物の老朽化に伴う修繕を行う。

施設・設備の内容	予 定 額	財 源
施設、医療機器等整備	1,591百万円 うち循環器・脳脊髄センター 既存棟改修関係 1,369百万円	長期借入金等

2 人事に関する事項

病院機構全体の人事を一元的に管理する体制を検討する。
職員の業績・能力評価を的確に反映する人事管理について検討する。

3 職員の就労環境の整備

国の働き方改革の動向を踏まえて多様な勤務形態の導入について検討する。